



Next Horizon Sustainable City

ネクストホライズン・サステナブルシティー「持続可能な都市」の次の地平線へー
2026 City of Kitakyushu

Message

北九州市は、かつて製鉄をはじめとするものづくりの力で、日本の高度経済成長を支えた都市です。一方で、その急速な発展ゆえに、環境、経済、社会のさまざまな課題にも、日本の都市として最も早く直面してきました。しかし、私たちはそのたびに、市民、企業、行政が力を合わせ、何度も困難を乗り越えてきました。北九州市は、何度も立ち上がる、つまり再生的（Regenerative）な力を有しています。

今、私たちはまた新たな問いに向き合っています。次の時代を支える産業を、どう育てるか。超高齢社会の中で、持続可能で誰も取り残さない都市をどう築くか。激甚化する気候リスクに、どう立ち向かうか。

こうした挑戦の中で、2025年は大きな転換点となりました。企業誘致の投資額は過去最高を記録し、日本最大級の洋上風力発電事業などの大規模プロジェクトも着実に進んでいます。そして、北九州市の人口は60年ぶりに「社会増」を実現しました。とりわけ、若者や女性の転入がその原動力です。これは、北九州市が再び信頼を取り戻し、「選ばれる都市」へと生まれ変わっている証です。私たちの挑戦は、世界にも一層広がっています。パリでのOECDの会合、ボンでの国際会議、台湾・高雄市やインド・テランガナ州との連携、カンボジアでの長年の水道技術協力。いずれも、北九州市が国際的なサステナビリティの一翼を担う存在であることを示しています。

私は「サステナビリティ」をボタンだと考えています。過去から現在へ、そして未来へ。国境や世代を越え、つながり合うこのボタンを、北九州市は今、確かに手にしています。そして、それを責任を持って次の世代へ渡していくことが、私たちの使命です。

この思いを込めて、私たちは「ネクストホライズン・サステナブルシティ」というビジョンを掲げました。その中心となるのは、

- ・曼荼羅的ネットワーク（Mandala-like network）：多様な主体が有機的につながる都市
 - ・利他的都市（Altruistic City）：互いを思いやる力をもつ都市
 - ・再生的都市（Regenerative City）：継続的に自らを再生する都市
 - ・変革主体（Transformative Agent）：世界の変化を自らつくりだす都市
- という4つの概念です。

世界の変化を自ら作り出す都市。気候変動や生物多様性など地球全体に危機が迫る中、これからの世界中の「都市」が求められる在り方であり、北九州市だからこそ、その先頭に立つことができます。なぜなら、

- ・子どもや未来のために市民が行動した公害克服の歴史
- ・環境国際協力プロジェクトを過去15年間で300件以上も実施した歴史
- ・カンボジアの首都プノンペンの水道を飲める水へと変えた「プノンペンの奇跡」といった、利他的で再生的な歴史がこのまちを彩っているからです。

そして、これらは、シューメイ・バイ教授が提唱する都市変革の理論とも深く連動しており、私たちの取組に学術的な後押しをいただいていることに大きな感謝を抱えています。

また、この都市像を今後も体現するため、3つの中核プロジェクトを進めています。

- ・都市共創とイノベーションを牽引する Transformation（Retalabo）
- ・北九州市をサステナビリティの国際的なハブへと高める Attraction（Destination）
- ・市民が自然に楽しく参加できる文化を育む Passion（Matsuri）

これらは、北九州市が次の地平へ向かうための原動力となるものです。

そしてなによりも、北九州市の最大の強みは、市民一人ひとりの情熱です。サステナビリティは、義務ではなく、「やってみたい」「楽しい」「貢献したい」という気持ちから生まれます。その気持ちを、私は何よりも信じています。

世界は今、かつてないほど複雑で困難な課題に直面しています。だからこそ北九州市は、その経験と行動力を世界と分かち合い、ともに未来を切り拓いていきます。

「北九州市なら、必ず、できる。」
皆さんとともに、このボタンを未来へ。
次の地平、「ネクストホライズン」へ向かって、一步一步、挑戦を続けましょう。



武内 和久
北九州市長



Message

今日、人類はこれまでに例のない深刻な地球規模の課題に直面しています。気候変動は加速し、生物多様性は通常の数十倍の速度で失われ、地球の多くのプラネタリー・バウンダリーがすでに超過されつつあります。同時に、世界人口の半数以上がすでに都市で生活しており、2050年には人類の3分の2が都市居住者になると予測されています。さらに、都市は世界の消費ベースのCO₂排出量の70%以上を占めています。こうした意味において、都市はしばしば気候変動の「元凶」と見なされます。

しかし私は、都市こそが最も革新的な解決策が生まれる場であると考えています。再生可能エネルギーの導入、次世代モビリティ、グリーンインフラなどがその代表例です。言い換えれば、都市は問題の源であるだけでなく、解決策の宝庫でもあるのです。

私たちは今、都市が大胆かつ協調的な行動を取らなければならない歴史的転換点に立っています。先進的な都市が単独で行動するだけでは不十分です。都市がネットワークを形成し、互いから学び、共に高みを目指すとき、地球全体の軌道を変えることができます。少数のフロントランナー都市であっても、その行動が波及効果や連鎖反応を生み、持続可能性に向けた新たな規範とポジティブなモメンタムを創出します。そういう意味で、私たちは都市を、地球規模の持続可能性を推進する「変革主体（transformative agents）」として再定義しなければなりません。

都市が変革主体として果たすべき役割は三つあります。

第一に、各都市が自らを変革しなければなりません。従来型の発展経路から脱却し、望ましい持続可能な未来に向けて加速することです。

第二に、都市は自らを良くするだけでは不十分であり、他の都市の変革を支援する必要があります。先進都市は「ショーケース」であるだけでなく、「触媒」となるべきです。

第三に、都市は強固なネットワークを築き、共に行動しなければなりません。気候関連災害リスクに備え、エネルギーや食料のレジリエントなサプライチェーンを確保する上で、都市間の連帯はこれまで以上に重要です。連携しともに行動する都市は、単独で努力する都市よりもはるかに強く、レジリエントになります。ネクストホライズン・サステナブルシティは、この概念を都市ビジョンとして明示的に取り入れ、実践する世界初の取り組みです。

では、なぜ北九州市なのでしょう。それは、北九州市が地球規模の変革に向けた「先導核（pioneering nucleus）」となり得る都市であり、私が2024年にScience誌で提示した「利他的都市（altruistic city）」の特徴を強く備えているからです。私は、地球規模の持続可能性は、先進的な少数の都市だけでは達成できず、むしろこれらの都市が、取り残されがちな都市を包摂し、共に前進することが不可欠であると論じました。そのためには、先導する都市による利他的な行動こそが鍵となります。

北九州市は、まさにその利他的精神を体現してきました。自らの環境課題を克服した後、国内外の都市に積極的に知見を共有し、環境改善を支援してきたのです。よく知られているように、北九州市は「公害の街」から「環境モデル都市」へと劇的な転換を遂げました。同市はこれまで15年間で300件以上の都市間連携プロジェクトを主導・支援してきました。2011年には、OECDよりアジア初の「グリーン成長モデル都市」に選定されました。北九州市は、環境協力を牽引する利他的な姿勢によって、国際的に高い評価を得ています。

この実績を基盤として、北九州市は現在、「ネクストホライズン・サステナブルシティ」を通じて次の段階へ進み、具体的なプロジェクトによって、世界的に先導する変革主体となることを目指しています。

最後に強調したいのは、都市は問題の集合体ではなく、解決策の豊かな源泉だということです。都市こそが、私たちの時代の変革主体にならなければなりません。そして北九州市は、その最前線に立っています。この取り組みに携わることができることを、大きな名誉に感じています。今後、北九州市の皆さまとともに歩んでいけることを楽しみにしています。



シューメイ・バイ
(Xuemei Bai)

オーストラリア国立大学特別教授、ARC ローレートフェロー。東京大学客員教授、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）評議員。研究分野は、急速な都市化に関する科学と政策、および都市システムの持続可能性。IPCC「気候変動と都市」に関する特別報告書の調整主筆者（Coordinating Lead Author）。2018年「ボルボ環境賞（Volvo Environment Prize）」受賞、2019年および2022年に「世界で最も影響力のある気候変動政策分野の100人」に選出。2021年「グローバル経済賞（Global Economy Prize）」受賞。



Team Support Messages



高村ゆかり

東京大学未来ビジョン研究センター教授

都市は、その区域外からもたらされるエネルギーや資源を含め、多くのエネルギーや資源を消費しています。世界の温室効果ガス

(GHG) 排出量の約70%が都市に由来します。都市が、適切な対策を進め、脱炭素で持続可能な社会に移行できれば、世界の資源効率性を高め、GHG排出量を大幅に削減する機会を生み出すことができます。都市はまた、人と知識と技術を集積し、持続可能な社会への移行を実現するソリューションとイノベーションを生み出すポテンシャルを持っています。北九州市が、これまで環境分野で培ってきた経験と実績を活かし、持続可能な社会への変革にむけた交流、協力、連携のハブとなることで、世界を持続可能な社会に変革する動力 (transformative agent) となることを期待しています。



中井徳太郎

日本製鉄顧問
元環境事務次官

これまでの都市文明の繁栄は、地球沸騰による災害、生物大量絶滅など生態系の破壊を招き、人類社会の存続を脅かしています。人類の過半が都市に暮らす現代において、都市文明を地球調和型のパラダイムに転換できるかが、地球での人類存続の鍵となります。古くから交流の拠点であり、明治以降は近代製鉄の中心として高度成長を支え、それに伴って生じた環境問題を克服し、日本を代表するエコタウンとなった北九州こそ、地球調和型の新たな都市文明のパラダイムを発信するにふさわしいです。曼陀羅的なネットワーク、利他的な都市、再生的な都市、世界の変革主体としての都市、とのコンセプトを探求し、三千年の未来に渡って持続可能な都市のあり方を北九州から発信していきたいです。



田瀬和夫

SDGパートナーズ 代表取締役CEO
元国連人道問題調整事務所 (OCHA)
人間の安全保障担当上級顧問

サステナビリティやウェルビーイングの本質は、違う人たちが力を合わせてこれまでなかった価値を生み出していく、「プラスサム」にあると考えています。その意味で、今般北九州市が利他という概念をまちづくりの中心に据え、人々の暮らしと自然との共存の両方に力強い方向性を示そうとされていることを高く評価し応援します。いま世界は激動の中にあり、一見サステナビリティにも逆風が吹いているようにも見えますが、私はこのお取り組みが2030年を遥かに超えて次世代の育成に繋がっていき、アジアと世界をリードするようなまちづくりになっていくことを確信するものです。



フランチェスコ・ズーロ

ミラノ工科大学デザイン学部長

デザインは人々の生活をより良くするために存在し、私たちを動かす根源的な力である「欲望」に形を与えます。しかし、欲望を無制限に満たすことは、環境を損ない、深刻な不平等を生み出しかねません。欲望は不可欠である一方、その過剰は、私たちが生きることを可能にしている基盤そのものを脅かします。ここで解決の手がかりを与えるのが「伝統」です。すべての欲望を「ケア (CARE)」という原理を通じて導くことです。環境への配慮、他者への配慮、そして「人間を超えた存在」への配慮が、プロジェクトの進むべき方向となります。利他的な都市へと変容した北九州市は、ケア、そしてそれに触発されたプロジェクトが、いかにしてコミュニティを支える持続可能な原動力となり得るかを示しています。

「サステナビリティ」とは何でしょうか？

それは、現在と未来、どちらも諦めないということです。

それは、今日と明日、どちらのためにも挑戦し続けるということです。

それは、今を生きる私たち、未来を生きる人々、すべての一人ひとりのためのものです。

北九州市のサステナビリティへの歩みは、市民からの力強い願いから始まりました。

高度経済成長期、北九州市は深刻な大気汚染に苦しみましたが、市民の「青空がほしい」という声を原点に、公害を克服し世界に誇る環境都市へと生まれ変わりました。

最初に声を上げたのは、地域の女性団体の母親たちでした。

そのたった一つの訴えが、市民・企業・行政を動かし、やがて世界の注目を集める大胆な挑戦へと発展していきました。

都市、国家、そして世界。地球環境、地域社会、産業経済。現在と未来。すべてはつながっています。

北九州市は、この「つながりの力」を絶えず活かしてきた、特別な都市です。

そして今も、このつながりを大切にしながら、未来に向けた新たな挑戦を続けています。

世界はこれから、いっそう困難な時代へ向かおうとしています。

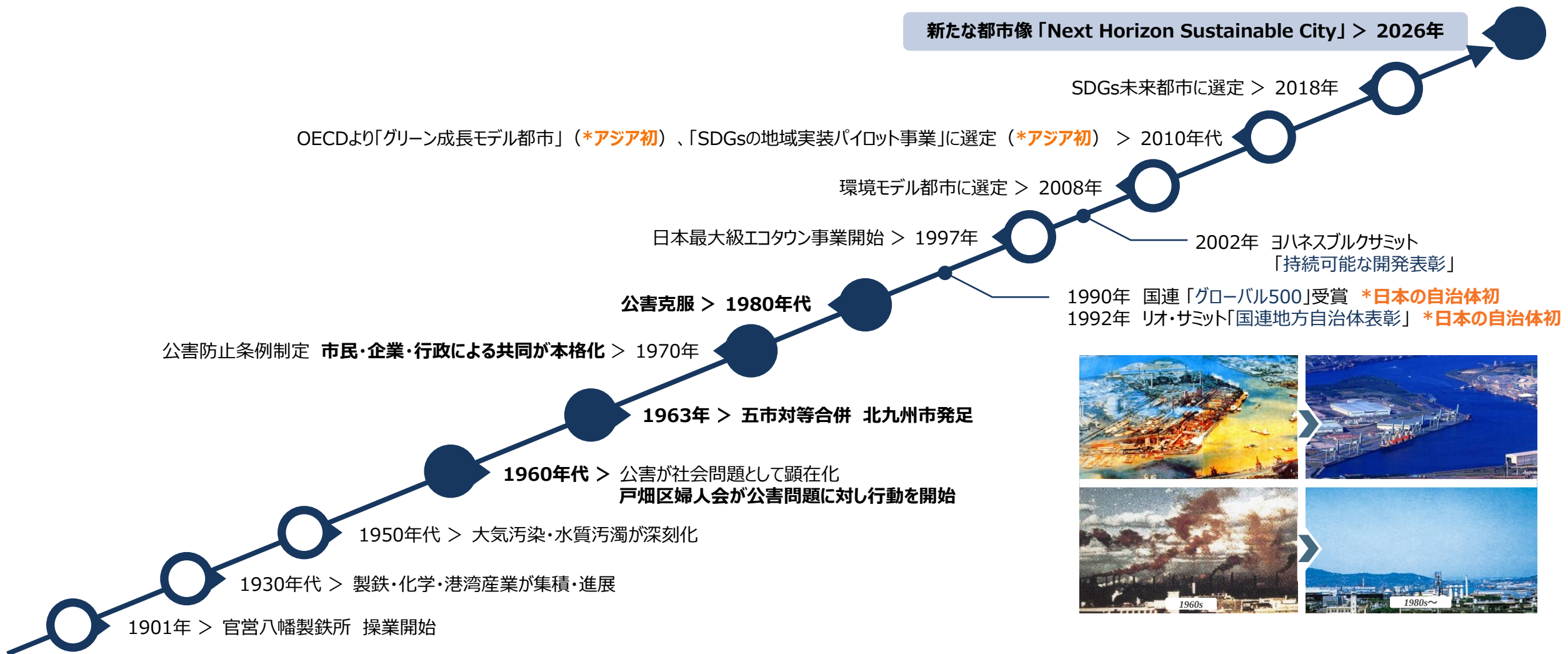
だからこそ、北九州市のように、市民の願いから挑戦を始める都市が、世界に必要とされています。

人の想いと行動が、都市を動かし、 世界を動かす都市

この思いを胸に、北九州市は Next Horizon Sustainable City へ歩みを進めていきます。

サステナブルシティ北九州市の歩み

北九州市は、いつの時代も最先端を走り続け、何度も課題に直面しては、そのたびに、市民とともに自らを変革し続けました。



「次なる地平線」とは何でしょうか？

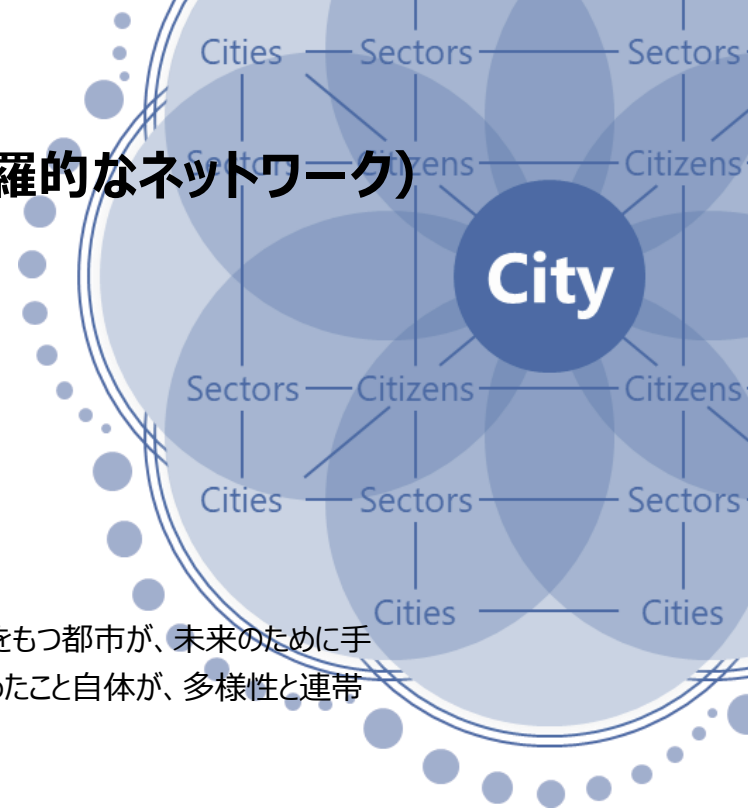
世界を先導するサステナブルシティである北九州市は、脱炭素、資源循環、生物多様性、高齢化、孤独、雇用といった複雑な課題に継続的に取り組み、その経験を世界に共有し、地球規模の変革に不可欠な都市（transformative agent）となることが期待されています。

北九州市は、以下の4つの概念に従って、サステナブルシティのネクストホライズン「次なる地平線」へと歩みを進めていきます。



●● Mandala-Like Network (曼荼羅的なネットワーク)

“ 曼荼羅的なネットワークは、
多様性と連帯から生まれます ”



北九州市は、古くから日本列島における人・物・文化の重要な結節点でした。関門海峡は、本州と九州を結ぶ生命線として機能してきました。

明治以降、門司港は海外貿易の玄関口となり、鉄道網が市内に広がりました。外の世界からもたらされる価値や技術が都市に新たな活力を与え、その活力がやがて再び外へと返されていく——北九州には、内と外の自然な循環が深く根づいています。

1963年、門司、小倉、若松、八幡、戸畑の5市は対等な立場で合併し、北九州市が誕生しました。

門司と若松は世界への港を開き、八幡は鉄によって近代日本を支え、小倉は行政と商業の中心となり、戸畑は文教のまちとして市民の日常を支えてきました。

こうした異なる歴史と役割をもつ都市が、未来のために手を取り合い、一つの市となったこと自体が、多様性と連帯の体現でした。

外の世界への貢献は、分断ではなく、内なる力を育みます。多様性と連帯は、権威ではなく、レジリエントな未来をつくり出します。

この、人、命、時空、すべてが、内や外など関係なく繋がっている、曼荼羅のようなネットワーク（Mandala-like Network）は、北九州市の中に息づいています。



Altruistic City (利他的な都市)

“限界の向こう側へ導く利他的な力を持つ都市です”

北九州市は、かつて日本の鉄の90%を生産し、国の近代化を支えた都市です。

発展の裏で大気汚染や水質汚濁が深刻化したとき、子どものため、未来のため、市民が立ち上がり、企業、行政が一体となり青い空、きれいな海を取り戻しました。

その過程で培われた環境技術や水処理技術を、北九州市はアジア諸国に惜しみなく共有しました。過去15年間で、300件を超える環境分野の国際協力プロジェクトを実施した都市は他にどれほどあるでしょうか？カンボジアの首都プノンペンへの水道技術協力は、「プノンペンの奇跡」として有名です。

また、市内には、ロボティクス、衛生機器、自動車製造など、世界の人々の生活を支えるグローバル企業が多数立

地しています。こうして、北九州市やその市民は、昔も今も、日々、世界のウェルビーイングに貢献しています。

そして何よりも、北九州市の市民には、困っている人を見ると放っておけない、思いやりの精神と、強い行動力があります。

人は他者のために尽くそうとすると、通常の力を超えた力を発揮することがあります。おそらく、都市も同じなのかもしれません。

北九州市には、利他の豊かな歴史があります。



Regenerative City (再生的な都市)

“再生の力が自然とコミュニティをよみがえらせる都市です,,

北九州市は、美しい海と空を取り戻し、市中心部に豊かな動植物を呼び戻し、安全・安心な都市環境をつくり上げてきた都市です。

私たちのまちは、日本で最も多くの再生可能エネルギーを生み、最も多くの資源をリサイクルする企業が立地しています。

そして何よりも、伝統を越えて、都市再生や地域活性化への挑戦と希望の声が、祇園太鼓の響きとともに立ち上がっています。

人は危機を機会と捉えたとき、これまで以上の情熱を発揮するものです。おそらく、都市も同じなのでしょう。

北九州市には、「再生」という深く根づいた伝統があります。

このようにして北九州市は、利他と再生が響き合う都市となりました。

かつては鉄のまちとして世界を支え、そして環境都市として再生を遂げた北九州市は、いま、新たな未来の環をつくろうとしています。

私たちは、この利他と再生の環を世界へ広げていきたいと願っています。



提供：ひびきウインドエナジー(株)

City as a **Transformative Agent** (世界の変革主体としての都市)

“**変革の主体としての都市が、私たちの地球の 「次の地平線」を形づくりま**す”

地球規模の課題に対処し、持続可能性を実現するためには抜本的な変革が求められています。

しかし現在の対応では断片的で不十分であり、気候変動は急速に加速し、生物は自然に減るはずの速さよりも、10倍から100倍も速いスピードで失われています。

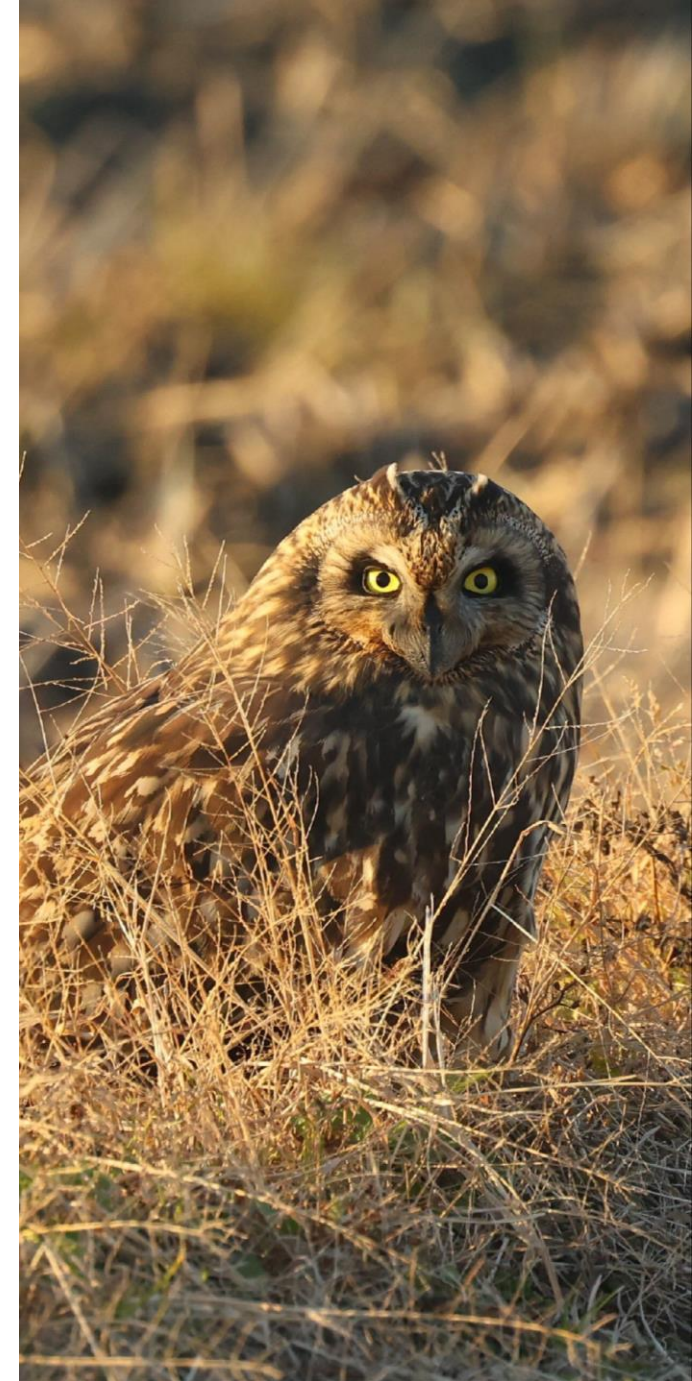
このような状況の下、都市が、気候変動の被害が少なく安心して暮らせる未来、生物多様性の保全、そして地球の自然のバランスを保っていくためには、次の3つの役割を果たすことが求められています。

1. 従来の流れから脱却し、望ましい将来像の実現を加速させること。
2. 自都市の改善にとどまらず、他都市の変革に影響を与え、モデルとして示すだけでなく、変革を促す存在となること。
3. 災害や外部要因に共同で対応するため、関係者が連携するネットワークを構築すること。

都市の行動は、個人や組織の行動を単に足し合わせたものではありません。都市は一つの仕組みとして働き、変化を生み出し、それを社会に根づかせます。また都市は、国境を越えて社会の変化を広げていく力を持っています。

社会の変革は、意欲と力を持つ小さな中心から始まります。都市はそれを支え、広げていく存在として、変革を進める主体（transformative agent）であるべきです。

これこそが、「Next Horizon Sustainable City」です。



どうすれば「次なる地平線」に行けるのでしょうか？

北九州市は、変革主体（transformative agent）として、ネクストホライズン・サステナブルシティに向けた三つのプロジェクトを実施します。

Retalabo（リタラボ）

- 利他的で、再生的で、かつ変革主体（transformative agent）としての実践ラボを設立します
- 市民と産業界・行政・学界との協働を通じて、複雑かつ困難な課題（wicked problem）を解決するためのプロセスを構築します
- 戦略的デザインによって世界を先導する取り組みを追求し、その経験を世界へ共有します

Destination Project（目的地プロジェクト）

- GDS-Index（Global Destination Sustainability Index）などを活用しサステナビリティに関心をもつ人々が「一生に一度は訪れたい」「何度も繰り返し訪れたい」と思う「目的地」となることを目指します

Matsuri Project（まつりプロジェクト）

- 多様な分野を横断して取り組むことで市民の日常生活に根ざしたサステナビリティを活性化し、より持続可能な都市に向けた市民の熱意と機運を喚起します



Retalabo (リタラボ)

— Altruistic, Regenerative and transformative agent labo

サステナビリティの実現のためには、分野にとらわれないイノベーションが必要です。戦略的デザイン（Strategic Design）のアプローチの下、複雑かつ困難な課題（wicked problem）に横断的に取り組むことで、利他的で、再生的で、かつ変革主体（transformative agent）としての実践の「場」としてのラボを構築します。

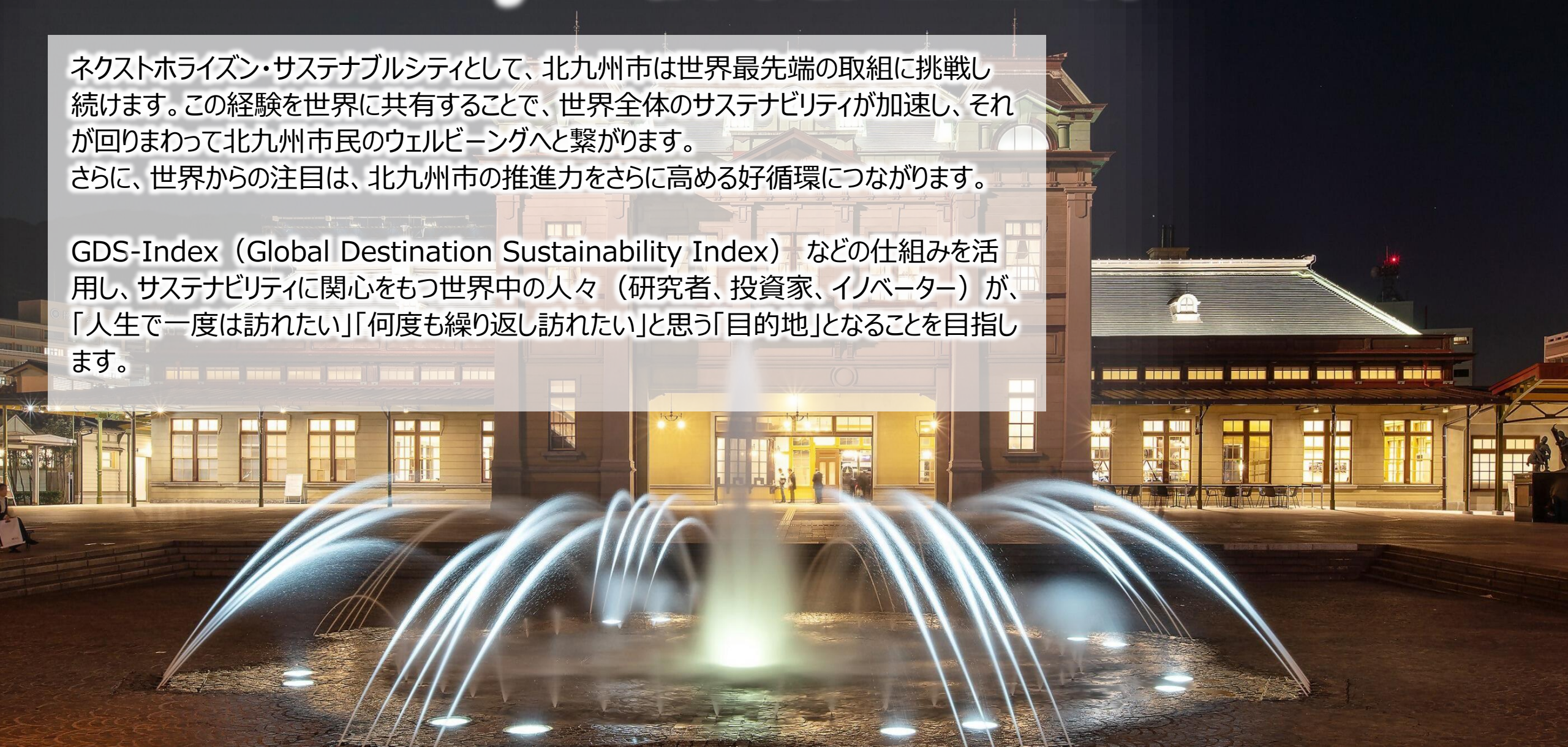
ここを起点に、市民の意欲や熱量を駆動力として、産官学民のコラボレーションにより、都市変革プロジェクトを生み出し続けます。これは、政府が推進するGX、地方創生SDGs、地域脱炭素、地域循環共生圏、統合的シナジーアプローチ、国民の行動変容施策等の実践の場としても貢献します。



Destination Project（目的地プロジェクト）

ネクストホライズン・サステナブルシティとして、北九州市は世界最先端の取組に挑戦し続けます。この経験を世界に共有することで、世界全体のサステナビリティが加速し、それが回りまわって北九州市民のウェルビーイングへと繋がります。さらに、世界からの注目は、北九州市の推進力をさらに高める好循環につながります。

GDS-Index（Global Destination Sustainability Index）などの仕組みを活用し、サステナビリティに関心をもつ世界中の人々（研究者、投資家、イノベーター）が、「人生で一度は訪れたい」「何度も繰り返し訪れたい」と思う「目的地」となることを目指します。



Matsuri Project (まつりプロジェクト)

北九州市は、まつりのまちです。

まつりは、人々の情熱により、数百年も続く、まさにサステナビリティを体現するものです。

そして、その市民の情熱は、都市の未来を変える力を持っています。

人々が日常生活の中でサステナビリティを感じ、意欲を高め、現在と未来のために行動を起こす力が、ネクストホライズン・サステナブルシティを進めるエンジンそのものです。

私たちは、食、スポーツ、エンターテインメント、アート、デザイン、文化、コミュニティといった様々な要素を横断しながら、市民の皆さんとともに、今と未来を諦めず、挑戦し続ける駆動力となる熱量を育んでいきます。

この熱量が、Retalabcを通じた変革を加速させ、目的地プロジェクトを加速させ、再びこのまつりプロジェクトで熱量へと変換させる、好循環の起点となります。



北九州市・ディープサステナビリティへの旅路

動画



<https://www.youtube.com/watch?v=Co9YzD9DGtM>

「利他」と「再生」が響き合う、ディープ・サステナビリティの都市、北九州市。
私たちは、この北九州市から、皆さまとともに「繋がり」と「価値」の輪を広げ、
真に持続可能な世界への道を歩んでいきたいと心から願っています。

ぜひ、北九州の現場に触れ、未来への一歩をご一緒にください。

ここでは皆様を、北九州市のディープ・サステナビリティに出会う旅へのご案内します。

ディープ・サステナビリティのルーツ

日本の高度経済成長をけん引した日本随一の産業都市、北九州。
しかし、1960年代、この地は「世界で最も海と空が汚染された都市の一つ」と呼ばれていました。そうした危機の中、最初に
声を上げたのは地元婦人会の母親たちでした。こどもたちのために
立ち上がった彼女たちの行動が、市民、企業、行政を動かし、
危機は変革へと変わりました。ここにディープ・サステナビリティの原点があります。



内に留まらない利他の精神

公害克服の経験は世界へと広がり、今や世界の環境改善に
役立っています。これまで160以上の国と地域で1万人を超える研修
者を受け入れ、また、最先端のテクノロジーを開発し、アジアの
国々の環境技術の進化を支えてきました。ローカルに根差した経験
が、グローバルを支える。まさに利他の精神を体現する北九州市の
姿がここに 있습니다。



人間を超える利他

かつて汚れた川も、地域の人々が立ち上がり、ホタルが舞い、
アユが泳ぐ清流を取り戻しました。地元企業も、生き物への
愛情を込めて、100万本の植樹に取り組みました。このまち
では、「人間を超えた」利他、そして豊かな自然を取り戻し
てきた再生の現場を見ることができます。



北九州の美意識

幾度も修復を経て立つ小倉城。その目の前に広がる四季を映す日本庭園。庭園でお茶を嗜む和の心。その美しさは、壊れたものを金でつなぎ、新たな価値を生み出す金継ぎの心と同じです。傷を受け入れ、新たな価値を見出す。北九州の美意識は、再生そのものです。

都市と自然の共生

北九州は夜景が煌めく活気ある大都会。そのすぐそばに、数億年の歴史を語るカルスト台地、生命が躍動する干潟、ごみの埋立地から絶滅危惧種が生息する草原へと変わったビオトープが広がります。「アーバンネイチャー」。つまり都市と自然が織り混ざるこのまちの景色は、この星の未来を照らします。



"BI"
Beauty



"WAZA"
Technology



"MEGURU"
Cycle



"INOCHI"
Life

日常的な地産地消

日本有数の魚種を誇る、海鮮の宝庫・北九州。三つの海の恵みが食卓を日常的に彩ります。さらに清らかな水だからこそ、おいしい米が育ち、地酒が醸される。そしてこのまちでは、本来捨てられるその米の“ぬか”を使い、魚を炊き上げます。皮や骨まで命を余さず味わう「ぬかだき」は家庭に根付いた知恵の味です。海も山も台所も、すべてが廻りつながっている。まさに地産地消の極みです。

産業力

都市の中心からすぐ近くに聳え立つ、壮大な洋上ウィンドファーム。その岸边には、日本最大のリサイクル企業群が集積し、廃棄物を資源へと変えるエコタウン。健康と環境にいい製品をつくり続ける企業群。技術の力で、グローバルとローカル、どちらも諦めない利他と再生の道を歩む産業の現場がここに 있습니다。

"NOZOMI"
Hope

治安再生とまちづくり

ここはかつて、過激な反社会勢力の拠点でした。しかし、市が丸丸となって撲滅に動き、いまや、地域にとっての憩いの場として再生に向かっています。多くの世代が挑戦し、つながり、子どものため、未来のために、住み心地が良いまちを取り戻す不断の変革を進める市民の輪が広がっています。変わる勇気が新たな価値を生み出します。

みらい人材の育成

このまちの子どもたちは、ディーブ・サステナビリティの受け手であると同時に、担い手でもあります。まち全体が、環境学習、SDGs 学習の場となり、小さい頃から多くの経験を積むことで、利他と再生の心を育みます。「知る」から「動く」へ。未来を変える、世界にとってなくてはならない人材が、このまちから羽ばたきます。

高齢化社会への挑戦

この街にとって、課題は変革への大きなチャンスです。人情とものづくりのまちが、どこよりも早く高齢化問題に直面したからこそ、先進的なロボット技術や AI を積極的に取り入れ、また、支え合いの仕組みを生み出しました。テクノロジーと人の温かさによりこの時代に寄り添い、利他の心を体現します。

"SAKI"
Forefront

"NETSU"
Passion

北九州市の熱量

このまちは、スポーツを愛しています。世界中からアスリートが集まり、情熱が結集します。これが、このまちに代々受け継がれてきたいくつもの祭りと呼応します。空に響く祇園太鼓は鼓動そのものです。スポーツや祭りでもごみを出さないリユースの工夫。誰かのために動く市民の思いが伝わります。心を揺さぶるのは、人の思いとまちの誇り。この熱量が、まさにディーブ・サステナビリティのエンジンです。

"KO"
Child

北九州市は、市民一人ひとりの行動と想いで溢れています。

公害を克服した母親たちの勇気、自然を愛する人々の挑戦、技術と人の温かさを結ぶ先進的な取り組み、
未来を担う子どもたちの学び、祭りやスポーツに込められた情熱。

これらすべてがつながり、循環し、まち全体を持続可能にしています。

北九州市は、まさに市民とともに「利他」と「再生」の輪を広げ、サステナブルな未来を創る都市です。

ぜひ一度、このまちを訪れ、未来への挑戦に触れてください。
世界を一緒により良くしていきましょう。



Kitakyushu **Action!**

動かせ、未来。北九州市